

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和3年7月9日（金）10時00分～11時00分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

大辻室長補佐、新井安全審査官、高松専門職、横山係長、久川係員、

高木技術参与

知見主任安全審査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当5名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
 - 1号機原子炉格納容器（PCV）ガス管理設備核種分析装置（B）系（以下「B系」という。）における機器異常警報発生について
 - ✓ 2021年7月4日、1号機PCVガス管理設備において、「1号機PCVガス管理核種分析装置盤（B）機器異常」の警報が発生し、Cs-137放射能濃度の指示値の低下等を確認したことから、7月5日にB系による監視が不能と判断した。
 - ✓ その後、現場確認や測定データの採取により、Ge半導体検出器（以下「検出器」という。）の高圧電源（HV）指示値が0Vであったこと、核種分析装置モニタに表示されるスペクトルにずれがあったこと等を確認したことから、B系の監視が不能となった原因については、検出器の不具合によるものと推定した。
 - ✓ 7月6日に不具合があったB系の検出器の交換を実施し、7月7日に同検出器を冷却後、B系の再起動及びインサービスを行い、B系による測定を再開した。
 - ✓ なお、この間、核種分析装置（A）系については正常に測定中であり、パラメータに異常が無い事を確認した。
 - ✓ 検出器の不具合が生じた原因については、7月6日の交換時に、交換前の検出器の表面に結露が確認されたことから、検出器内部の断熱構造が何らかの原因で損傷し、冷却していた検出器の温度が上昇したことにより、スペクトルのずれや検出器用高圧電源（HV）指示値が0Vになったと推定している。断熱構造が損傷した原因については現在調査中。
 - 循環注水冷却スケジュールについて
 - ✓ 今年の9月に、2、3号機において、現在使用している原子炉注水系とは異なるタービン建屋内炉注水系の運転確認を実施する予定である。なお、当該運転確認では、実際に原子炉内への注水を実施する計画である。
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメント等を行った。
 - 検出器の断熱構造が損傷した原因の調査結果及びそれを踏まえた対策については、今後も引き続き説明すること。
 - 核種分析装置による測定結果について、正常に測定が行えているA系のトレンドを示すとともに、A系・B系のトレンドを比較した上で、監視が不能と判断した根拠等について説明すること。

- 今年の9月に2、3号機で予定しているタービン建屋内炉注水系の運転確認について、実際に使用するポンプの定格流量等を示した上で、運転上の制限（LCO）の範囲内で実施するための運用・手順を説明すること。

6. その他

資料：

- 1号機PCVガス管理設備核種分析装置（B）機器異常警報発生について
- 循環注水冷却スケジュール
- 使用済燃料プール対策スケジュール
- 燃料デブリ取り出し準備スケジュール